GA-8I945GMF

Intel® Pentium® D / Pentium® 4 LGA775 プロセッサマザーボード

ユーザーズマニュアル

改版 1002

目次

第 1 章 ハードウェアのインストール 3
1-1 取り付け前に 3
1-2 特長の概略 4
1-3 CPU とヒートシンクの取り付け 6
1-3-1 CPU の取り付け 6
1-3-2 ヒートシンクの取り付け 7
1-4 メモリの取り付け 8
1-5 拡張カードのインストール 10
1-6 I/O 後部パネルの紹介 11
1-7 コネクタはじめに 12

第 1 章 ハードウェアのインストール

1-1 取り付け前に

コンピュータを用意する

マザーボードには、静電放電(ESD)により損傷を受ける、様々な精密電子回路および装置が搭載されていますので、取り付け前に、以下をよくお読みください：

1. コンピュータをオフにし、電源コードのプラグを外します。
2. マザーボードを取り扱う際は、金属部またはコネクタに触れないでください。
3. 電子部品(CPU、RAM)を取り扱う際は、静電防止用(ESD)ストラップを着用してください。
4. 電子部品を取り付ける前に、電子部品を静電防止パッドの上、または静電シールドコンテナ内に置いてください。
5. マザーボードから電源コネクタのプラグを抜く前に、電源が切断されていることを確認してください。

取り付け時のご注意

1. 取り付ける前に、マザーボードに貼布されているステッカーを剥がさないでください。これらのステッカーは、保証の確認に必要となります。
2. マザーボード、またはハードウェアを取り付ける前に、必ず、マニュアルをよくお読みください。
3. 製品を使用する前に、すべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
4. マザーボードへの損傷を防ぐため、ネジをマザーボード回路、またはその機器装置に接触させないでください。
5. マザーボードの上、またはコンピュータケースの中に、ねじ或いは金属部品を残さないようにしてください。
6. コンピュータを不安定な場所に置かないでください。
7. 取り付け中にコンピュータの電源を入れると、システムコンポーネントまたは人体への損傷に繋がる恐れがあります。
8. 取り付け手順や製品の使用に関する疑問がある場合は、公認のコンピュータ技師にご相談ください。

保証対象外

1. 天災地変、事故又はお客様の責任により生じた破損。
2. ユーザマニュアルに記載された注意事項に違反したことによる破損。
3. 不適切な取り付けによる破損。
4. 認定外コンポーネントの使用による破損。
5. 許容パラメータを超える使用による破損。
6. Gigabyte 製品以外の製品使用による破損。

日本語

1-2 特長の概略

CPU	◆ Intel® Pentium® D / Pentium® 4 LGA775 CPU 対応(注 1) ◆ 1066/800/533MHz FSB をサポート ◆ L2 キャッシュは CPU により異なります
チップセット	◆ ノースブリッジ：Intel® 945G エキスプレスチップセット ◆ サウスブリッジ：Intel® ICH7 ◆ Win 2000/XP オペレーティングシステム対応
メモリ	◆ 4 DDR II DIMM メモリスロット(最大 4GB のメモリをサポート)(注 2) ◆ デュアルチャネル DDR II 667(注 3)/533/400 DIMM をサポート ◆ 1.8V DDR II DIMM をサポート
スロット	◆ 1 個の PCI エキスプレス x 16 スロット ◆ 1 個の PCI エキスプレス x 1 スロット ◆ 2 個の PCI スロット
IDE 接続	◆ 1 つの IDE 接続(UDMA 33/ATA 66/ATA 100)で、2 台の IDE デバイスに接続可能 ◆ Win 2000/XP オペレーティングシステム対応
FDD 接続	◆ 1 つの FDD 接続で、2 台の FDD デバイスに接続可能
オンボード SATA 3Gb/s	◆ 4 つの SATA 3Gb/s 接続 ◆ Win 2000/XP オペレーティングシステム対応
周辺装置	◆ 1 個のパラレルポートで通常/EPP/ECP モードをサポート ◆ 1 個の VGA ポート、オンボード COMA/COMB 接続 ◆ 8 個の USB 2.0/1.1 ポート(後部 x 4、前部 x 4 ケーブル経由) ◆ 3 個の IEEE1394 ポート(後部 x 1、前部 x 2 ケーブル経由) ◆ 1 個のフロントオーディオコネクタ ◆ 1 個の PS/2 キーボードポート ◆ 1 個の PS/2 マウスポート
オンボード LAN	◆ オンボード Marvell 8053 チップ(10/100/1000 Mbit) ◆ 1 個の RJ45 ポート ◆ Win 2000/XP オペレーティングシステム対応

(注 1) 詳細な CPU サポート情報は、GIGABYTE の Web サイトを参照ください。

(注 2) 標準 PC アーキテクチャに基づき、一定量のメモリがシステム用途に確保されます。従って、実際のメモリサイズは規定量より少なくなります。
例えば、4 GB のメモリサイズは、システム起動時には 3.xx GB と表示されます。

(注 3) マザーボードで DDRII 667 メモリを使用する場合、800/1066MHz FSB プロセッサをインストールする必要があります。

日本語

オンボードオーディオ	◆ ALC882 CODEC ◆ Jack-Sensing サポート ◆ 2 / 4 / 6 / 8 チャンネルオーディオをサポート ◆ ライン入力、ライン出力(フロントスピーカー出力)、マイク、サラウンドスピーカー出力(リアスピーカー出力)、センター/サブウーファースピーカー出力、サイドスピーカー出力の接続をサポート ◆ SPDIF 入/出力接続 ◆ CD 入力 ◆ Win 2000/XP オペレーティングシステム対応
I/O コントロール	◆ IT8712F
ハードウェアモニタ	◆ システム電圧検出 ◆ CPU/システム温度検出 ◆ CPU/システムファン速度検出 ◆ CPU/システム温度警告 ◆ CPU/システムファン故障警告 ◆ CPU スマートファンコントロール ◆ システムスマートファンコントロール
BIOS	◆ ライセンス済み AWARD BIOS の使用 ◆ Q-Flash をサポート
その他の機能	◆ @BIOS をサポート ◆ EasyTune5 (ハードウェアモニタ機能のみ)をサポート
オーバークロック	◆ BIOS によりオーバークロック(DDR II)
フォームファクター	◆ Micro ATX フォームファクタ ; 24.4 cm x 24.4 cm

日本語

1-3 CPU とヒートシンクの取り付け

注意

CPU を取り付ける前に、以下の手順に従ってください：

1. マザーボードが CPU をサポートすることを確認してください。
2. CPU の刻み目のある角に注目してください。CPU を間違った方向に取り付けると、適切に装着することが出来ません。装着できない場合は、CPU の挿入方向を変えてください。
3. CPU とヒットシンクの間にヒートシンクペーストを均等に塗布してください。
4. CPU のオーバーヒートおよび永久的損傷が生じないように、システムを使用する前に、ヒートシンクが CPU に適切に取り付けられていることを確認してください。
5. プロセッサ仕様に従い、CPU ホスト周波数を設定してください。周辺機器の標準規格に適合しないため、システムバス周波数をハードウェア仕様以上に設定しないことをお勧めします。仕様以上に周波数を設定する場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブ等を含むハードウェア仕様に従って設定してください。

注

ハイパースレッディング機能に必要な条件：
ご使用のコンピュータシステムでハイパースレッディングテクノロジーが有効となるには下記のプラットホームコンポーネント条件を全て満たしている必要あります。

- CPU：ハイパースレッディングテクノロジー対応 Intel® Pentium 4 プロセッサ
- チップセット：ハイパースレッディングテクノロジー対応 Intel®チップセット
- BIOS：ハイパースレッディングテクノロジー対応 BIOS およびその設定が有効になされる
- OS：ハイパースレッディングテクノロジー対応の最適化機能を有するオペレーティングシステム

1-3-1 CPU の取り付け

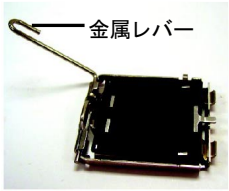


図 1
CPU ソケットに位置する金属レバーを垂直にゆっくり引き上げます。

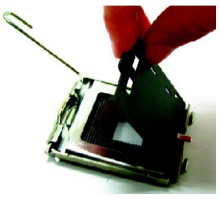


図 2
CPU ソケットのプラスチックカバーを外してください。

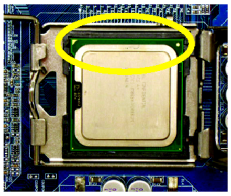


図 3
CPU ソケット端に位置する小さな金色の三角形に注目します。CPU の刻み目のある角を三角形に合わせ、CPU を静かに装着します。(CPU を親指と 4 本の指でしっかりつかみ、直線的な下方動作でソケットに押し込みます。装着時に CPU の損傷を引き起こす可能性のある、ひねりや曲げ動作は避けてください。)

図 4
CPU が適切に挿入された後、プラスチックカバーを元に戻し、金属レバーを元の位置に推し戻します。

1-3-2 ヒートシンクの取り付け

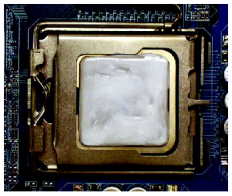


図 1
取り付けられたCPU表面にヒートシンクペーストを均一に塗ります。

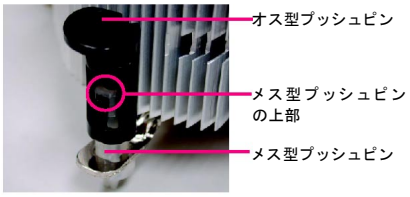


図 2
(プッシュピンを矢印方向に回し、ヒートシンクを取り外します。その反対は装着となります。)装着前に、オス型プッシュピンの矢印方向を内向きにしないように注意してください。(この説明はインテルボックスファンのみに適用されます)

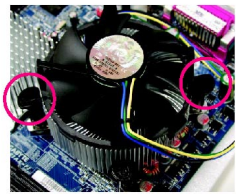


図 3
ヒートシンクをCPUの上にのせ、プッシュピンがマザーボード上のピン穴に向いているか確認します。プッシュピンを斜めに押し下げます。

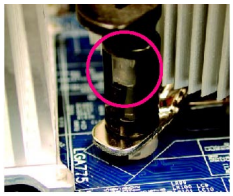


図 4
オス型とメス型プッシュピンが緊密に接合されているか確認します。(詳細な装着方法については、ユーザマニュアルのヒートシンク装着セクションを参照ください)

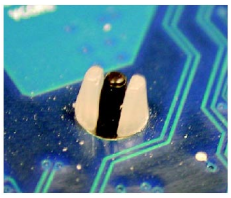


図 5
装着後にマザーボード背面をチェックしてください。プッシュピンが図のように挿入されていれば、装着は完了です。

図 6
最後にヒートシンクの電源コネクタをマザーボードにある CPU ファンヘッダに接続します。

注
ヒートシンクペーストの硬化により、ヒートシンクがCPUに付着する場合があります。付着を防止するには、ヒートシンクペーストの代わりにサーマルテープを使用し、熱を発散させるか、またはヒートシンクを取外す際は慎重に行ってください。

日本語

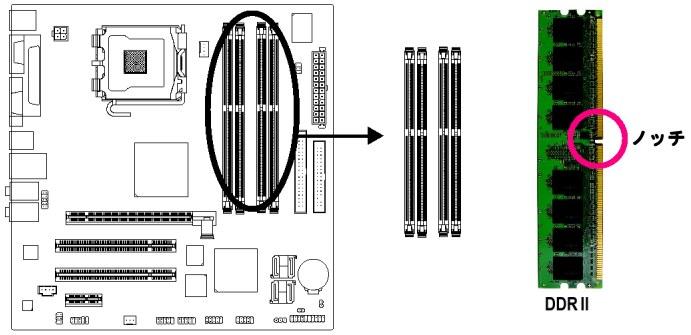
1-4 メモリの取り付け

注意

メモリモジュールを取り付ける前に、以下の手順に従ってください：

1. ご使用のメモリがマザーボードにサポートされているかどうかを確認してください。同様の容量、仕様、および銘柄のメモリをご使用することをお勧めします。
2. ハードウェアへの損傷を防ぐため、メモリモジュールの取り付け/取り外し前に、コンピュータの電源を切ってください。
3. メモリモジュールは、きわめて簡単な挿入設計となっています。メモリモジュールは、一方向のみに取り付けることができます。モジュールを挿入できない場合は、方向を換えて挿入してください。

マザーボードは、DDR II メモリモジュールをサポートし、BIOS は自動的にメモリ容量と仕様を検出します。メモリモジュールは、一方向のみに挿入するように設計されています。各スロットには異なる容量のメモリを使用できます。



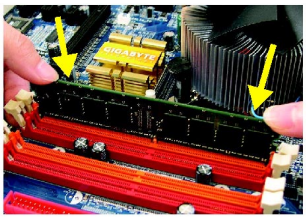


図 1
DIMM ソケットにはノッチがあり、DIMM メモリモジュールは一方向のみに挿入するようになっています。DIMM メモリモジュールを DIMM ソケットに垂直に挿入し、押し下げてください。

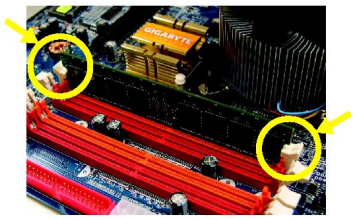


図 2
DIMM ソケットの両側にあるプラスチックのクリップを閉じて、DIMM モジュールを固定します。
DIMM モジュールを取り外すにはインストールと逆の手順で行います。

デュアルチャンネル DDR II

GA-8I945GMF はデュアルチャンネルテクノロジーをサポートしています。デュアルチャンネルテクノロジーを使用すると、メモリバスのバンド幅は倍増されます。

GA-8I945GMF は4つの DIMM ソケットがあり、各チャンネルは以下に示すように2つの DIMM ソケットを備えます。

- チャンネル A：DDR II 1、DDR II 2
- チャンネル B：DDR II 3、DDR II 4

デュアルチャンネルテクノロジーで操作したい場合は、以下の説明は Intel チップセット仕様の制限対象になることにご注意ください。

1. 1つまたは3つの DDR II メモリモジュールをインストールした場合、デュアルチャンネル機能は使用できません。
2. 2個の DDR II メモリモジュールがインストール(同一のメモリ容量)された場合、デュアルチャンネルメモリを使用するには、メモリモジュールがチャンネル A とチャンネル B のそれぞれに装着される必要があります。2個の DDR II メモリモジュールが同一のチャンネルに装着された場合は、デュアルチャンネルメモリは動作しません。
3. 4つの DDR II メモリモジュールを取り付ける場合、デュアルチャンネルメモリの使用と BIOS による全 DDR II メモリモジュールの検出のために、同一容量のメモリを使用してください。

2つの DDR II メモリモジュールを同じ色の DIMM に挿入し、デュアルチャンネルテクノロジーを有効にすることを強く推奨します。

以下のテーブルは、デュアルチャンネル技術の組み合わせを示します：(DS：両面実装、SS：片面実装)

	DDR II 1	DDR II 2	DDR II 3	DDR II4
2枚のメモリモジュール	DS/SS	X	DS/SS	X
	X	DS/SS	X	DS/SS
4枚のメモリモジュール	DS/SS	DS/SS	DS/SS	DS/SS

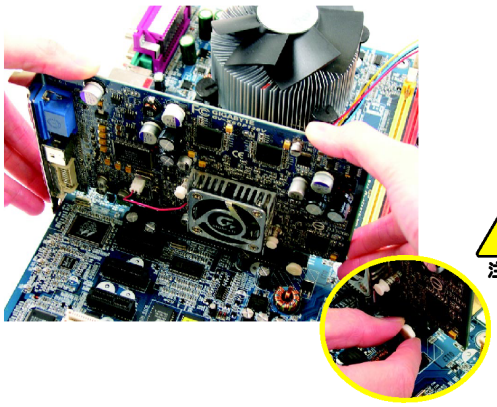
日本語

1-5 拡張カードのインストール

以下の手順に従い、拡張カードを取り付けてください：

1. 拡張カードのインストールに先立ち、関連した指示説明をお読みください。
2. コンピュータからケースカバー、固定用ネジ、スロットブラケットを外します。
3. マザーボードの拡張スロットに拡張カードを確実に差します。
4. カードの金属接点面がスロットに確実に収まったことを確認してください。
5. スロットブラケットのネジを戻して、拡張カードを固定します。
6. コンピュータのシャーシカバーを戻します。
7. コンピュータの電源をオンにします。必要であれば BIOS セットアップから拡張カード対象の BIOS 設定を行います。
8. オペレーティングシステムから関連のドライバをインストールします。

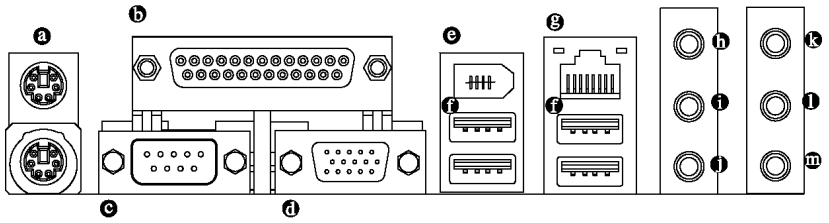
PCI エキスプレス x 16 拡張カードを取り付ける：



注意

PCI カードの装着/取り外し時には、エキスプレス x 16 スロット端の小さい白色の取り外しバーを注意深く引いてください。VGA カードをオンボードPCIエキスプレスx 16 スロットにそろえ、スロットに確実に押し込んでください。ご使用になる VGA カードが小さな白いバーによってロックされたことを確認してください。

1-6 I/O 後部パネルの紹介



ⓐ **PS/2 キーボードおよび PS/2 マウスコネクタ**
PS/2 ポートキーボードとマウスを接続するには、マウスを上部ポート(緑色)に、キーボードを下部ポート(紫色)に差し込んでください。

ⓑ **パラレルポート**
パラレルポートは、プリンタ、スキャナ、および他の周辺装置に接続することができます。

ⓒ **COMA (シリアルポート)**
シリアルベースのマウス、またはデータ処理デバイスに接続します。

ⓓ **VGA ポート**
モニタを VGA ポートに接続します。

ⓔ **IEEE1394 ポート**
電気電子学会で制定されたシリアルインタフェース規格で、高速転送、広帯域、およびホットプラグを特徴としています。(オプション装備の IEEE1394 ケーブルのお求めにはトルの販売店にお問い合わせください。)

ⓕ **USB ポート**
USB コネクタに USB キーボード、マウス、スキャナー、zip、スピーカーなどを接続する前に、ご使用になるデバイスが標準の USB インタフェースを装備していることをご確認ください。
またご使用の OS が USB コントローラをサポートしていることもご確認ください。ご使用の OS が USB コントローラをサポートしていない場合は、OS ベンダーに利用可能なパッチやドライバの更新についてお問い合わせください。詳細はご使用の OS やデバイスのベンダーにお問い合わせください。

ⓖ **LAN ポート**
インターネット接続は、Gigabit イーサネットであり(PCI エキスプレス Gigabit)、10/100/1000Mbps のデータ転送速度が提供されます。

ⓗ **ライン入力**
デフォルトのライン入力ジャックです。CD-ROM、Walkman などのデバイスをライン入力ジャックに接続できます。

ⓘ **ライン出力(フロントスピーカー出力)**
デフォルトのライン出力(フロントスピーカー出力)ジャックです。ステレオスピーカー、イヤフォン、フロントサラウンドスピーカーをライン出力(フロントスピーカー出力)ジャックに接続できます。

ⓙ **マイク入力**
デフォルトのマイク入力ジャックです。マイクロフォンはマイク入力ジャックに接続します。

日本語

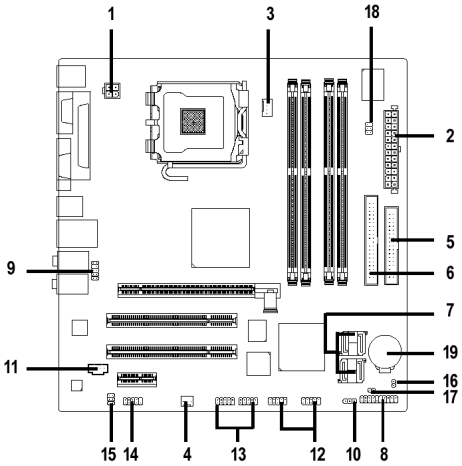
ⓚ **サラウンドスピーカー出力(リアスピーカー出力)**
デフォルトのサラウンドスピーカー出力(リアスピーカー出力)ジャックです。リアサラウンドスピーカーをサラウンドスピーカー出力(リアスピーカー出力)ジャックに接続できます。

ⓘ **センター/サブウーファースピーカー出力**
デフォルトのセンター/サブウーファースピーカー出力ジャックです。センター/サブウーファースピーカーをセンター/サブウーファースピーカー出力ジャックに接続できます。

ⓜ **サイドスピーカー出力**
デフォルトのサイドスピーカー出力ジャックです。サラウンドサイドスピーカーをサイドスピーカー出力ジャックに接続できます。

注
デフォルトのスピーカー設定に加え、ⓗ～ⓜオーディオジャックにはオーディオソフトウェアを通じて異なる機能を再設定できます。但しマイクロフォンだけはデフォルトのマイク入力ジャック(ⓘ)に接続する必要があります。ソフトウェア設定の詳細については、2-/4-/6-/8-チャンネルオーディオセットアップのステップを参照ください。

1-7 コネクタはじめに



1)	ATX_12V	11)	CD_IN
2)	ATX (Power Connector)	12)	GREEN_USB/F_USB
3)	CPU_FAN	13)	F1_1394 / F2_1394
4)	SYS_FAN	14)	COMB
5)	FDD	15)	SPDIF_IO
6)	IDE	16)	CI
7)	SATAII0_1 / SATAII2_3	17)	CLR_CMOS
8)	F_PANEL	18)	RF_ID
9)	F_AUDIO	19)	BATTERY
10)	PWR_LED		

1/2) ATX_12V/ATX (電源コネクタ)

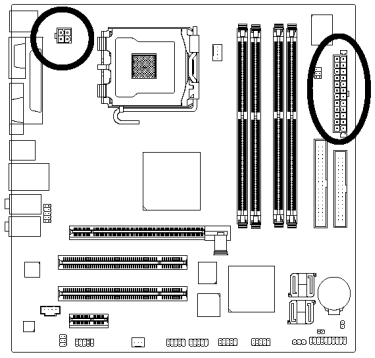
電源コネクタの使用により、安定した十分な電力をマザーボードのすべてのコンポーネントに供給することができます。電源コネクタを接続する前に、すべてのコンポーネントとデバイスが適切に取り付けられていることを確認してください。電源コネクタをマザーボードにしっかり接続してください。

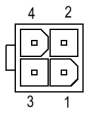
ATX_12V 電源コネクタは、主に CPU に電源を供給します。ATX_12V 電源コネクタが適切に接続されていない場合、システムは作動しません。

注意！

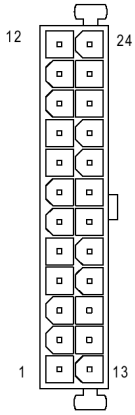
システムの電圧規格に適合するパワーサプライを使用してください。高電力消費(300W 以上)に耐え得る電源をご使用することをお勧めします。必要な電力を提供できないパワーサプライを使用される場合、結果として不安定なシステムまたは起動ができないシステムになります。

24 ピン ATX 電源を使用する場合、電源コネクタ上のカバーを取り外し電源コードを接続してください。それ以外の使用時はカバーをはずさないでください。





ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V

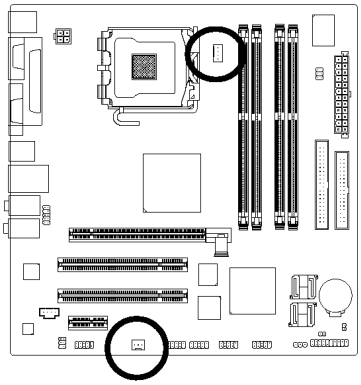


ピン番号	定義
1	3.3V
2	3.3V
3	GND
4	+5V
5	GND
6	+5V
7	GND
8	電源装置
9	5V SB (スタンバイ +5V)
10	+12V
11	+12V
12	3.3 V (24 ピン ATX のみ)
13	3.3V
14	-12V
15	GND
16	PS_ON (ソフトオン/オフ)
17	GND
18	GND
19	GND
20	-5V
21	+5V
22	+5V
23	+5V
24	GND

日本語

3/4/5) CPU_FAN / SYS_FAN (クーラーファン電源コネクタ)

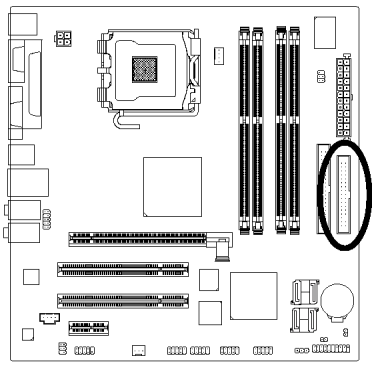
クーラーファン電源コネクタは、3 ピン/4 ピン(CPU ファン専用)電源コネクタ経由で+12V 電圧を供給し、接続が誰でも簡単にできるよう設計されています。
ほとんどのクーラーには、色分けされた電源コネクタワイヤが装備されています。赤色電源コネクタワイヤは、正極の接続を示し、+12V 電圧を必要とします。黒色コネクタワイヤは、アース線(GND)です。
システムのオーバーヒートや故障を防ぐため、必ず、クーラーに電源を接続してください。
注意！
CPU のオーバーヒートや故障を防ぐため、必ず、CPU ファンに電源を接続してください。

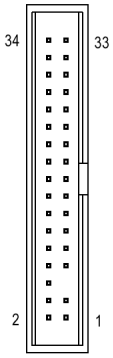


ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	Sense
4	速度制御 (CPU_ ファンのみ)

5) FDD (フロッピーコネクタ)

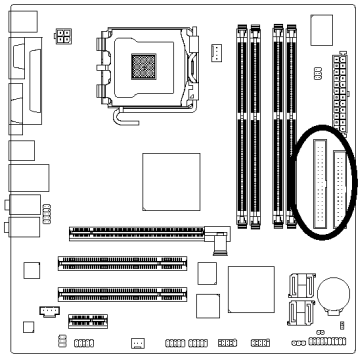
FDD コネクタは、FDD ケーブルの接続に使用し、もう一端は FDD ドライブに接続します。対応 FDD ドライブの種類は以下の通りです：360KB、720KB、1.2MB、1.44MB および 2.88MB。
赤色電源コネクタワイヤをピン 1 位置に接続してください。

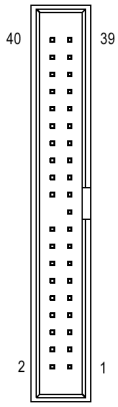




6) IDE (IDE コネクタ)

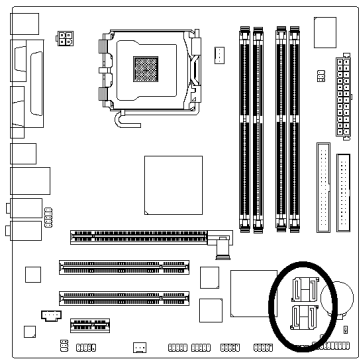
IDE デバイスは IDE コネクタによりコンピュータに接続します。1 つの IDE コネクタには 1 本の IDE ケーブルを接続でき、1 本の IDE ケーブルは 2 台の IDE デバイス(ハードドライブや光学式ドライブ)に接続できます。2 台の IDE デバイスを接続する場合は、一方の IDE デバイスのジャンパをマスターに、もう一方をスレイブに設定します(設定の情報は、IDE デバイスの指示を参照ください)。

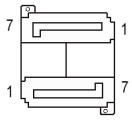




7) SATAII0/SATAII1/SATAII2/SATAII3 (SATA 3Gb/s コネクタ)

SATA 3Gb/s は、最大 300MB/秒の転送速度を提供することができます。正しく動作させるため、シリアル ATA の BIOS 設定を参照し、適切なドライバをインストールしてください。



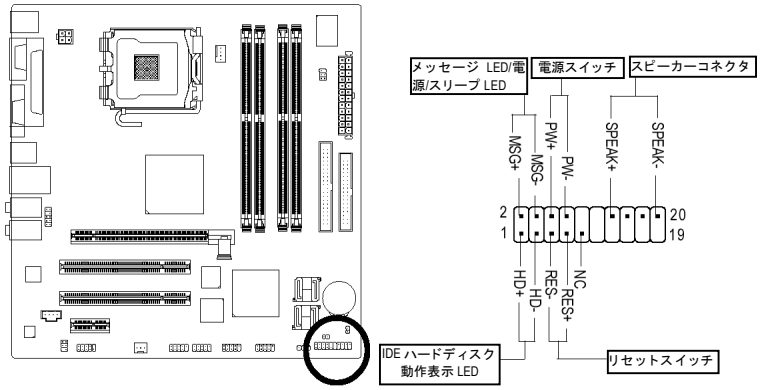


ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND

日本語

8) F_PANEL (フロントパネルジャンパ)

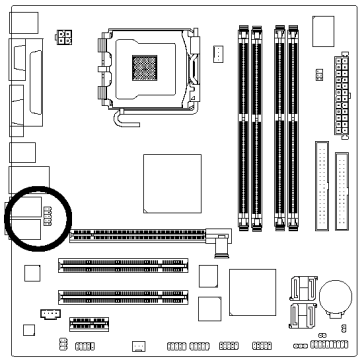
ご使用のケースのフロントパネルにある電源 LED、PC スピーカー、リセットスイッチおよび電源スイッチなどを以下のピン配列にしたがって、F_PANEL に接続します。



HD (IDE ハードディスク動作表示 LED)	ピン 1 : LED 正極(+) ピン 2 : LED 負極(-)
SPEAK (スピーカーコネクタ)	ピン 1 : 電源 ピン 2-ピン 3 : NC ピン 4 : Data (-)
RES (リセットスイッチ)	オープン : 通常 ショート : ハードウェアシステムのリセット
PW (電源スイッチ)	オープン : 通常 ショート : 電源オン/オフ
MSG (メッセージ LED/電源/スリープ LED)	ピン 1 : LED 正極(+) ピン 2 : LED 負極(-)
NC	NC

9) F_AUDIO (フロントオーディオコネクタ)

このコネクタは HD (High Definition)または AC97 フロントパネルオーディオモジュールに対応しています。フロントオーディオ機能を使用したい場合、フロントオーディオモジュールをこのコネクタに接続してください。フロントパネルオーディオモジュールの接続時には、ピン配置をよく確認してください。モジュールとコネクタ間での誤った接続はオーディオデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプションのフロントパネルオーディオモジュールについては、シャーシの製造業者にお問い合わせください。



HD オーディオ：

ピン番号	定義
1	MIC2_L
2	GND
3	MIC2_R
4	-ACZ_DET
5	Line2_R
6	FSENSE1
7	FAUOIO_JD
8	ピンなし
9	LINE2_L
10	FSENSE2

AC'97 オーディオ：

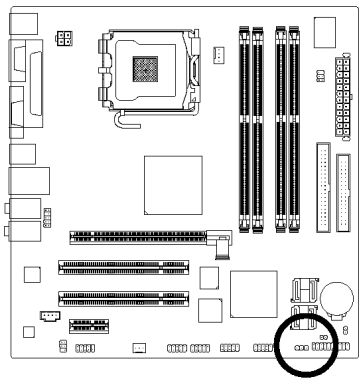
ピン番号	定義
1	MIC
2	GND
3	MIC 電源
4	NC
5	ライン出力(R)
6	NC
7	NC
8	ピンなし
9	ライン出力(L)
10	NC

注

デフォルトでは、オーディオドライバは HD オーディオ対応に設定されています。AC97 フロントオーディオモジュールをこのコネクタに接続するには、69 ページのソフトウェア設定を参照ください。

10) PWR_LED

PWR_LED はシステム電源表示ランプに接続してシステムのオン/オフを表示します。システムがサスペンドモードになると点滅します。

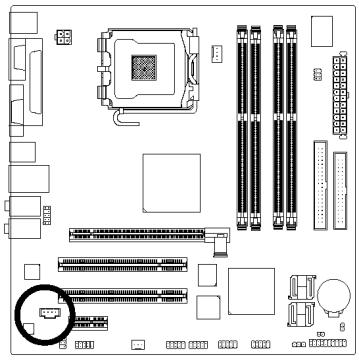


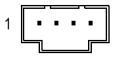
ピン番号	定義
1	MPD+
2	MPD-
3	MPD-

日本語

11) CD_IN (CD 入力)

CD-ROM または DVD-ROM のオーディオ出力はこのコネクタに接続します 。



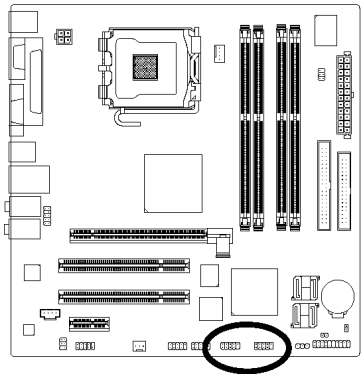


ピン番号	定義
1	CD-L
2	GND
3	GND
4	CD-R

15) F_USB/GREEN_USB (フロント USB コネクタ)

フロントUSBコネクタの極性にご注意ください 。フロントUSBケーブルの接続にはピン配列をご確認ください 。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります 。オプション装備のフロント USB ケーブルのお求めには地元の販売店にお問い合わせください 。

GREEN_USB コネクタはシステムオフ時にスタンバイ電源を供給せず 、USB デバイスによる S3 モードからの復帰はサポートしません 。システム電源オフ時に USB デバイスに対するスタンバイ電源(注)を供給したくない場合 、オプションのフロントUSBケーブルを使用してデバイスをこのコネクタに接続できます 。

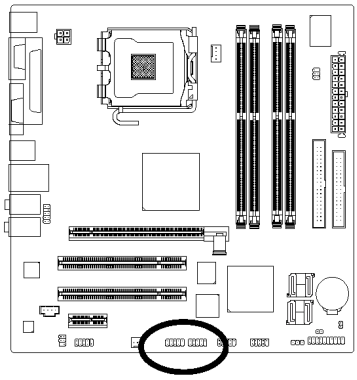


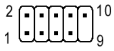
ピン番号	定義
1	電源
2	電源
3	USB Dx-
4	USB Dy-
5	USB DX+
6	USB Dy+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC

(注) スタンバイ電源が供給されないと、システム電源オフ時に USB デバイス(例 : 光学式マウス)は点灯しません 。

13) F1_1394 / F2_1394 (IEEE1394 コネクタ)

電気電子学会で制定されたシリアルインタフェース規格で、高速転送、広帯域、およびホットプラグを特徴としています。IEEE1394 コネクタの極性にご注意ください。IEEE1394 ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプション装備の IEEE1394 ケーブルのお求めには地元の販売店にお問い合わせください。

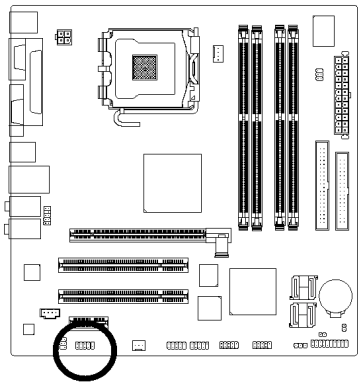




ピン番号	定義
1	TPA+
2	TPA-
3	GND
4	GND
5	TPB0+
6	TPB0-
7	電源
8	電源
9	ピンなし
10	GND

14) COMB (シリアルポートコネクタ)

COM コネクタの極性にご注意ください。COM ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプション装備の COM ケーブルのお求めには地元の販売店にお問い合わせください。

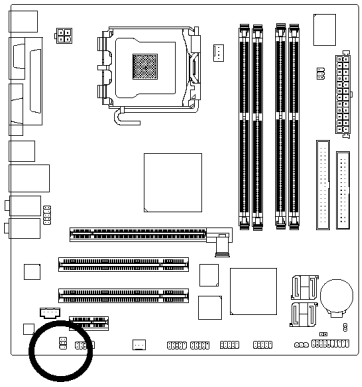


ピン番号	定義
1	NDCDB-
2	NSIN B
3	NSOUT B
4	NDTR B-
5	GND
6	NDSR B-
7	NRTS B-
8	NCTS B-
9	NRI B-
10	ピンなし

日本語

15) SPDIF_IO (SPDIF 入/出力)

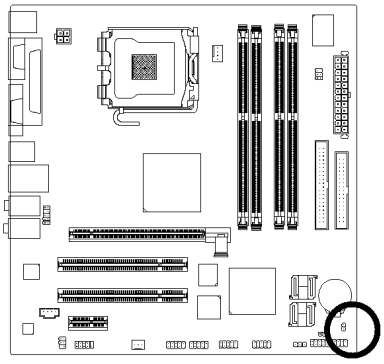
SPDIF 出力はデジタルオーディオを外部スピーカーに、AC3 圧縮データを外部ドルビーデジタルデコーダーに出力できます。この機能はお持ちのステレオ装置がデジタル入力機能を装備している場合のみ使用可能です。SPDIF 入力機能はご使用の装置がデジタル出力機能を装備している場合のみ使用可能です。SPDIF_IOコネクタの極性にご注意ください。SPDIF_IO ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプション装備の SPDIF_IO ケーブルのお求めには地元の販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	電源
2	ピンなし
3	SPDIF
4	SPDIFI
5	GND
6	GND

16) CI (ケース侵入、ケース開放)

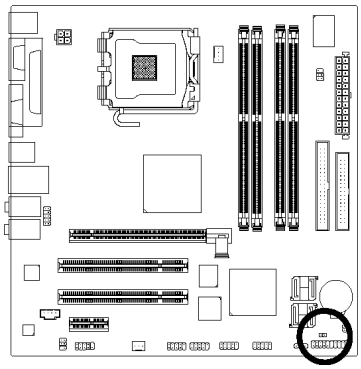
この 2 ピンコネクタは BIOS の"Case Open"項目の有効または無効にでき、本体ケースが開けられたことの検出に使用されます。



ピン番号	定義
1	信号
2	GND

17) CLR_CMOS (CMOS クリア)

このジャンパーにより、CMOS データをクリアしてデフォルト値に復元できます。CMOS のクリアには一時的に 1-2 番ピンをショートさせます。デフォルトではジャンパーの不適切な使用を防ぐ“シャンター(shunter)”はありません。

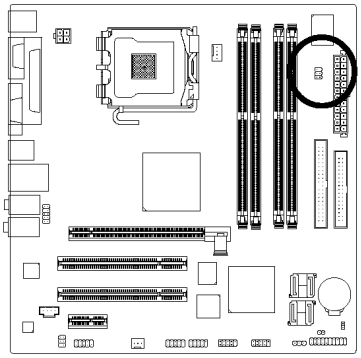


オープン：通常

ショート：CMOS クリア

18) RF_ID

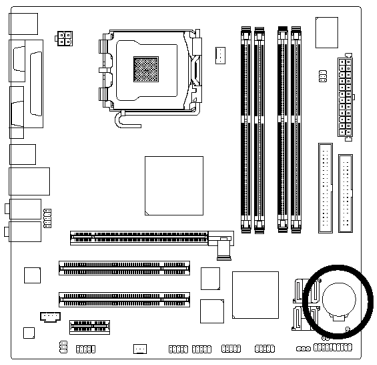
このコネクタに拡張機能を備えた外部デバイスを接続できます。外部デバイスケーブルを接続する前に、ピン配置を確認してください。オプションの GIGABYTE 外部デバイスについては、お近くの販売店にお問い合わせください。

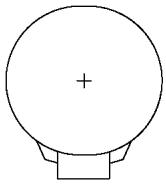


ピン番号	定義
1	電源
2	RFID_RI-
3	RF_TXD
4	RF_RXD
5	NC
6	GND

日本語

19) BAT (バッテリー)





- ❖ バッテリーの交換を間違えると爆発の危険があります。
- ❖ メーカー推奨と同一のタイプの物と交換してください。
- ❖ 使用済みバッテリーはメーカーの指示に従って廃棄してください。

CMOS 内容を消去するには...

1. コンピュータをオフにし、電源コードのプラグを外します。
2. 電池を静かに外し、10 分ほど放置します(または電池ホルダーのプラス・マイナスピンを金属片で 1 分間ほどショートさせます)。
3. バッテリーを入れなおします。
4. 電源コードのプラグを差し、コンピュータをオンにします。

日本語

日本語